

2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月15日

上場会社名 株式会社博展 上場取引所 東
 コード番号 2173 URL <https://www.hakuten.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田口 徳久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営本部長 (氏名) 田中 雅樹 TEL 03-6278-0010
 四半期報告書提出予定日 2021年2月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	4,697	△49.9	△861	—	△694	—	△428	—
2020年3月期第3四半期	9,380	△0.5	463	8.7	467	11.2	318	6.4

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 △428百万円 (—%) 2020年3月期第3四半期 319百万円 (6.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	△54.86	—
2020年3月期第3四半期	40.27	40.20

(注) 2021年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	4,719	756	15.6	93.84
2020年3月期	4,372	1,254	28.3	158.86

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 734百万円 2020年3月期 1,239百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	6.00	—	11.00	17.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日（2021年2月15日）公表いたしました「2021年3月期 通期連結業績予想の修正及び配当予想の修正（期末無配）に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,090	△45.1	△850	—	△565	—	△300	—	△37.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2021年2月15日）公表いたしました「2021年3月期 通期連結業績予想の修正及び配当予想の修正（期末無配）に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 -社 (社名) -、除外 -社 (社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	7,957,200株	2020年3月期	7,935,700株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	135,182株	2020年3月期	135,182株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	7,813,652株	2020年3月期3Q	7,920,430株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
3. 補足情報	9
生産、受注及び販売の状況	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(単位:百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額	増減率 (%)
売上高	9,380	4,697	△4,682	△49.9
売上総利益 (%)	2,607 (27.8)	1,294 (27.6)	△1,312	△50.4
営業利益又は営業損失(△) (%)	463 (4.9)	△861 (△18.3)	△1,324	—
経常利益又は経常損失(△) (%)	467 (5.0)	△694 (△14.8)	△1,162	—
親会社株主に帰属する四半期 純利益又は親会社株主に帰属 する四半期純損失(△) (%)	318 (3.4)	△428 (△9.1)	△747	—

(注) 売上総利益、営業利益又は営業損失、経常利益又は経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失の下段に記載している数値は、それぞれ売上高に対する割合を示しております。

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、新型コロナウイルスの感染拡大に収束の兆しが見られず、展示会・イベント開催の自粛や延期が相次ぐとともに、企業も広告宣伝費の抑制に動いたことから、大変厳しい事業環境となりました。2020年5月の緊急事態宣言解除後は国内の経済活動に回復の兆しが見られたものの、7月以降の第2波の影響によりリアルイベント再開への機運が停滞しました。さらに、9月中旬よりイベント開催人数制限が段階的に緩和された中、積極的な営業活動を展開してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の再拡大という第3波の影響を大きく受けました。

その一方で、リモートワークの浸透等の社会環境の変化に合わせ、マーケティング市場においてはオンラインを活用したプロモーション活動への需要が急速に高まっており、当社もオンライン向けのサービス開発に迅速に対応し、顧客のプロモーション活動をサポートしております。また、顧客からはリアルプロモーションに対して、ユーザーとの深いリレーションが図れる貴重な場として、その有用性が再認識されており、リアルとデジタルの垣根を超えた視点で「価値ある体験」を再設計し、統合型のコミュニケーションデザインを提供すべく、デジタル領域のサービス拡大とリアルイベントの価値向上に尽力しております。

このような環境の中、当社グループは、中期ビジョン「ココロ揺さぶる瞬間（とき）を創り、世の中を次へ動かす」の実現のため、下記の重点分野に注力し取り組んでおります。

- ① リアルとデジタルのハイブリッド型のコミュニケーションデザインの確立
- ② 新規開拓のための組織体制・施策の強化
- ③ 制作部門の内製領域の拡大（デジタル、商環境分野）

当第3四半期連結累計期間における売上高は、上述のとおり予定をしていた各種展示会・イベント等の中止の影響を受け、46億97百万円（前年同四半期比49.9%減）となりました。

各商材カテゴリー別の売上高の状況は、次のとおりです。

（単位：百万円）

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額	増減率 (%)
展 示 会 出 展	2,852	249	△2,603	△91.3
イ ベ ン ト プ ロ モ ー シ ョ ン	2,332	1,436	△896	△38.4
商 談 会 ・ プ ラ イ ベ ー ト シ ョ ー	2,033	272	△1,760	△86.6
カ ン フ ェ レ ン ス ・ セ ミ ナ ー	538	63	△475	△88.2
商 環 境	824	1,415	590	71.7
デ ジ タ ル ・ コ ン テ ン ツ & マ ー ケ テ ィ ン グ	727	1,153	425	58.5
そ の 他	70	108	37	52.8
売 上 高 合 計	9,380	4,697	△4,682	△49.9

売上高は、展示会出展、商談会・プライベートショー、イベントプロモーション、カンファレンス・セミナーというリアルイベント領域において、新型コロナウイルスによる開催自粛・縮小の影響を受け、大きく減少しました。一方で、前年同四半期より売上高が大きく伸長した商環境では、大手企業のミュージアムやコンセプトショップ等、新たな領域のサービスを拡大しております。また、デジタル・コンテンツ&マーケティングにおいては、リアルイベントの代替としてオンラインイベントの需要が伸びることを早期に見込み、グループ会社のスプラシアと連携を図り、配信プラットフォームの整備と本社内にスタジオを開設する等のサービス提供体制を整えたことで、顧客のニーズを取り込み売上高が増加しました。商環境とデジタル・コンテンツ&マーケティングについては、引き続き成長領域と位置づけ、戦略的に施策の強化を図ってまいります。

売上総利益は売上高の大幅な減少が影響し、12億94百万円（前年同四半期比50.4%減）となりましたが、内製率の向上に努めたことにより、売上総利益率は27.6%（前年同四半期は27.8%）と前年同時期並みの水準を確保いたしました。

販売費及び一般管理費は、21億55百万円（前年同四半期比0.6%増）、販売費及び一般管理費率が45.9%（前年同四半期は22.9%）となり、この結果、営業損失は8億61百万円（前年同四半期は営業利益4億63百万円）となりました。また、雇用調整助成金等の収入1億77百万円を営業外収益に計上して、経常損失は6億94百万円（前年同四半期は経常利益4億67百万円）となり、旧製作スタジオの売却による特別利益75百万円と法人税等調整額1億91百万円を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は4億28百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益3億18百万円）となりました。

当第3四半期累計期間における報告セグメントの業績は、次のとおりです。

a. リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業※1

当第3四半期連結累計期間におけるリアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業の売上高は、42億11百万円（前年同四半期比51.8%減）、セグメント損失は8億31百万円（前年同四半期はセグメント利益4億17百万円）となりました。

これは、前述のとおり、新型コロナウイルスの影響により、展示会出展、商談会・プライベートショー、イベントプロモーション、カンファレンス・セミナーの売上高が大幅に減少したことによりです。

b. デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業※2

当第3四半期連結累計期間におけるデジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業の売上高は、4億85百万円（前年同四半期比24.7%減）、セグメント損失は22百万円（前年同四半期はセグメント利益48百万円）となりました。

これは、グループ会社の株式会社アイアクトと株式会社スプラシアにおいて、前年同四半期の大型プロジェクトに見合う受注を獲得できず、前年同四半期比で売上高が減少したことによりです。

- ※1. 展示会・イベント等、人と人が出会う“場”・“空間”において、様々な体験価値を通じて提供される製品・サービスの宣伝・販売活動を「Experience マーケティング」と位置付け、“コミュニケーション”に関わるあらゆる「表現」「手段」「環境」を最適化し“デザイン”することで、サービスを展開しております。
- ※2. インターネットを活用したビジネスモデルの策定から戦略的なWebサイト構築やアプリケーション制作をはじめとし、ビジネス向けアプリ制作・配信・管理プラットフォームやAI・コグニティブ領域など、最先端のデジタル・テクノロジーを集積し“デザイン”することでサービスを提供しています。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループは、持続的成長の実現を可能とし、長期にわたり企業価値を向上させるために、事業活動により創出した営業キャッシュ・フローを、規律ある成長投資の実行や、株主の皆様への長期的かつ安定的な利益還元にて充てながら、健全で強固な財務基盤を確立することを財務方針としています。

当連結会計年度におきましては、資金サイクルの向上やコスト削減等を通じて、更なるキャッシュ・フローの改善に努めております。また、第1四半期に手元流動性を高め財務安定化を図るべく、運転資金等の確保を目的に取引金融機関より20億円の借入を実行しました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における資産は、47億19百万円（前連結会計年度末比3億46百万円増）となりました。これは、現金及び預金が13億27百万円、仕掛品が2億15百万円増加した一方、売掛金の回収により受取手形及び売掛金が12億37百万円減少したこと等によります。

負債は、39億62百万円（前連結会計年度末比8億44百万円増）となりました。これは、上述のとおり20億円の調達をした一方で既存借入金の返済もあり借入金合計は16億49百万円増加しました。また、買掛金が3億40百万円、賞与引当金が2億65百万円、未払法人税等が1億7百万円減少したこと等によります。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失を4億28百万円計上したことと、配当金の支払に85百万円を充てたこと等により7億56百万円（前連結会計年度末比4億98百万円減）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間における業績経過と通期業績予想につきましては、本日発表の「2021年3月期 通期連結業績予想の修正及び配当予想の修正(期末無配)に関するお知らせ」のとおりであります。

また、当業績予想につきましては、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	837,744	2,165,492
受取手形及び売掛金	2,159,298	921,450
仕掛品	323,886	538,961
原材料及び貯蔵品	1,974	1,097
未収還付法人税等	—	10,210
その他	205,450	161,677
貸倒引当金	△11,874	△9,707
流動資産合計	3,516,479	3,789,184
固定資産		
有形固定資産	231,742	172,181
無形固定資産		
リース資産	28,295	7,300
その他	215,601	175,149
無形固定資産合計	243,896	182,449
投資その他の資産		
投資有価証券	8,265	8,046
繰延税金資産	135,465	327,330
敷金	234,599	231,338
その他	49,139	46,164
貸倒引当金	△46,849	△37,652
投資その他の資産合計	380,620	575,228
固定資産合計	856,259	929,859
資産合計	4,372,738	4,719,043
負債の部		
流動負債		
買掛金	715,726	375,233
短期借入金	912,000	2,300,000
1年内返済予定の長期借入金	322,980	268,561
未払法人税等	119,878	12,313
賞与引当金	293,435	27,960
工事補償引当金	5,271	26,503
その他	686,068	576,186
流動負債合計	3,055,360	3,586,758
固定負債		
長期借入金	54,281	370,003
その他	8,124	5,549
固定負債合計	62,405	375,552
負債合計	3,117,765	3,962,310
純資産の部		
株主資本		
資本金	181,049	185,768
資本剰余金	295,850	300,569
利益剰余金	856,294	341,868
自己株式	△97,002	△97,002
株主資本合計	1,236,191	731,204
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,970	2,827
その他の包括利益累計額合計	2,970	2,827
新株予約権	15,811	22,701
純資産合計	1,254,973	756,733
負債純資産合計	4,372,738	4,719,043

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	9,380,387	4,697,602
売上原価	6,773,383	3,403,255
売上総利益	2,607,004	1,294,346
販売費及び一般管理費	2,143,700	2,155,915
営業利益又は営業損失(△)	463,303	△861,569
営業外収益		
受取利息	284	218
受取配当金	222	245
貸倒引当金戻入額	9,433	11,382
雇用調整助成金	-	147,803
雑収入	1,716	18,075
営業外収益合計	11,657	177,724
営業外費用		
支払利息	6,615	9,243
雑損失	420	1,315
営業外費用合計	7,036	10,558
経常利益又は経常損失(△)	467,924	△694,403
特別利益		
固定資産売却益	-	75,639
投資有価証券売却益	77	-
特別利益合計	77	75,639
特別損失		
固定資産除却損	1,619	21
特別損失合計	1,619	21
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	466,382	△618,785
法人税、住民税及び事業税	74,787	1,622
法人税等調整額	72,669	△191,788
法人税等合計	147,456	△190,165
四半期純利益又は四半期純損失(△)	318,925	△428,619
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	318,925	△428,619

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	318,925	△428,619
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	354	△142
その他の包括利益合計	354	△142
四半期包括利益	319,280	△428,762
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	319,280	△428,762

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクスペ リエンス&コミュニ ケーション	デジタルエクス リエンス&コミュ ニケーション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,735,160	645,226	9,380,387	-	9,380,387
セグメント間の内部売上高又 は振替高	4,310	72,721	77,032	△77,032	-
計	8,739,471	717,948	9,457,420	△77,032	9,380,387
セグメント利益	417,852	48,113	465,966	△2,662	463,303

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,662千円は、セグメント間取引であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクスペ リエンス&コミュニ ケーション	デジタルエクス リエンス&コミュ ニケーション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,211,719	485,883	4,697,602	-	4,697,602
セグメント間の内部売上高又 は振替高	1,076	114,782	115,858	△115,858	-
計	4,212,795	600,665	4,813,460	△115,858	4,697,602
セグメント損失(△)	△831,152	△22,848	△854,000	△7,568	△861,569

(注) 1. セグメント損失の調整額△7,568千円は、セグメント間取引であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当社グループは、企業や団体の広告活動・販促活動に伴う、情報伝達を目的とした各種イベント及びマーケティングツールの企画・制作・運営を主たる業務として行っており、生産実績を定義することが困難であるため、生産実績の記載はしていません。

② 受注状況

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

前第3四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	10,676,678	114.5	4,468,610	149.4
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	614,258	104.2	266,227	109.3
合計	11,290,936	113.8	4,734,838	146.4

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

当第3四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	3,630,059	34.0	2,696,904	60.4
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	503,727	82.0	315,729	118.6
合計	4,133,787	36.6	3,012,634	63.6

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

前第3四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	8,735,160	98.6
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	645,226	112.5
合計(千円)	9,380,387	99.5

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

当第3四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	4,211,719	48.2
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	485,883	75.3
合計(千円)	4,697,602	50.1

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。